
いっつぁしょうたいむ！

リラン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつつあじょうたいむ！

【Nコード】

N5361Z

【作者名】

リラン

【あらすじ】

とある理由で遊戯王GXの世界に転生した主人公。またり生きてる中で、なんか色々おきてます！？
ちよっぴりシリアス& amp ;ラブ？な物語。

なんかワンキルしてました(前書き)

小説を書くのはまだ慣れていないので、暖かい目で見ていただけると幸いです。

なんかワンキルしてました

side ????

「ふう…ここが試験会場か…」

最近流行りの二次創作。まさか自分が当事者になるとはな…しかも転生モノ。死ななきゃいけない。

文面から見てのとおり、俺は一回死んでいる。つまり、お前はもう死んでいる状態な訳だ。（意味わからん）んで、奇跡的にどつかの神様に拾っていただいたで、ここ、遊戯王GX（半ば強制的。神様は忙しいらしい。）の世界にやって来たと言うことだ。まあ、気に入ってるからいいけど。ただ、原作知識が曖昧なんだよな…俺は漫画派だったから。さ、とりあえず筆記試験受けるか。

あ、そうそう、他にも何人がトリップして来た奴らがいるらしいから接触するか。見つかり次第。

さあ、筆記試験筆記試験！

一時間後

………ひでえ。社長ひでえ。途中まで普通の筆記試験だったのにいきなり青眼の白龍の攻撃力、守備力、種族、属性、説明文を答えるとか究極嫁の攻撃力、s（ry）ま、あの程度なら楽勝でしょ！おっと、俺の自己紹介がまだだったな。俺の名前は流川伽弥転生前は19歳、今は15歳だ。使うデッキは…後でわかる。自己紹介はこんなもんかな。試験結果でも見に行くか。番号は…6番か。もう少し良い成績が良かったな。さてと、実技試験に備えて、デッキ調整でもするか。

一時間後

よし、OK!! 他人の決闘も見てみるか。

「《豊穰のアルテミス》でダイレクトアタック」

「ぬわっ…!」

「勝者、一番涼川奏!」

「一番? 一番って、三沢、もといエアーマンじゃないのか?」

それにしても《豊穰のアルテミス》か…パーミッションかな。なるべく決闘りたくはない相手だな。

「次! 二番、三沢大地!」

「はい!」

おお、三沢は二番か…さてよ。原作と違うと言つことは…あの涼川
つて奴は、俺と同じトリッパーって事か?

後で接触するか。仲間は多い方がいい。

15分後…

「次! 6番! 流川伽弥!」

「はい」

ついでに言つと、俺は無口な方…だと思つ。

相手は…お馴染みグラサン試験官か。

「君が6番かね?」

「はい」

「よし、ならば決闘を始めよう。」

「よろしくお願いします」

「「決闘!!!」」

試験官LP4000

伽弥LP4000

「先攻は私がもらう。ドロー!」

やつぱ早いもん勝ちかよ。先攻ぐらい譲れつてのグラサン試験官w

「私は不屈闘士レイレイを召喚!! 更に二重召喚を発動し、ゴブリン突撃部隊を召喚!! さらにゴブリン突撃部隊にデーモンの斧を装

備してターンエンド!!」

《不屈闘士レイレイ》

地 / 4 / 獣戦士 / 2300 / 0 効果

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。次の自分ターン終了時までこのカードは表示形式を変更できない。

《ゴブリン突撃部隊》

地 / 4 / 戦士 / 2300 / 0

効果

このカードが攻撃したら、バトルフェイズ終了時に守備表示にする。次のターンこのカードの表示形式は変更できない。

《デーモンの斧》

装備魔法

攻撃力1000アップ。このカードが墓地に送られたら、自分フィールド上のモンスターを一体生け贄に捧げてこのカードを自分フィールド上のモンスターに装備することができる。

ほう…下級デメリットアタッカーが二体。問題ないな。この手札ならワンキルだ。

(あいつ終わったな)

(可哀想に…)

(すげえ…)

(おい、自重しろよ)

は？ナニイッテンノ？伏せカードなし、手札二枚、(あんまかんけない)の相手に。ネタ発言は無視!!いちいち突っ込むほど俺は暇じゃない。さあ、反撃開始だ!

フィールド

試験官LP4000

不屈闘士レイレイ

ゴブリン突撃部隊

デーモンの斧（ゴブリン突撃部隊に装備）

伏せ0

手札2

「俺のターン！！ドロー！俺は苦渋の選択を発動！俺はライトロードビーストウォルフ、ライトロードマジシャンライラ、ライトロードウォリアーガロス、ライトロードモンクエイリン、ライトロードパラディンジェイン！」

さあ、読者n「メタ発言禁止！by作者」ふう、俺のデッキはライトロードだ。色んなライトロードの派生系使うからヨロシク！今回？ガチだよ。負けるわけにはいかないから。おっと、決闘中だったな。

「私は、ライトロードビーストウォルフを選択する。」

「了解」

まあ、当然か。しかし、いい手札だ。決めるか。

「俺の墓地に存在するライトロードの種類は4種類！」

「だからなんだと言っただね！」

お、今のム〇カっぱい

「天駆ける光の道から生者を導きにやって来る！裁け！！裁きの龍！！！」

そして出てくる裁きの龍。俺のエースカードだ。しかし、ソリッドビジョンで見ると迫力あるね。さすが。

《ライトロード・モンク エイリン》

光/4/戦士/1600/1000効果

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算前にそのモンスターをデッキに戻す。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデ

ツキの上からカードを3枚墓地へ送る。

《ライトロード・パラディン ジェイン》

光 / 4 / 戦士 / 1800 / 1200 効果

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が300ポイントアップする。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。

《ライトロード・マジシャン ライラ》

光 / 4 / 魔法使い / 1700 / 200

効果

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードを表側守備表示に変更し、相手フィールド上の魔法または罫カード1枚を破壊する。この効果を発動した場合、次の自分のターン終了時までこのカードは表示形式を変更できない。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地に送る。

《ライトロード・ウォリアー ガロス》

光 / 4 / 戦士 / 1850 / 1300 効果

自分フィールド上に表側表示で存在する「ライトロード・ウォリアー ガロス」以外の「ライトロード」と名のついたモンスターの効果によって自分のデッキからカードが墓地に送られる度に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。このカードの効果で墓地に送られた「ライトロード」と名のついたモンスター1体につき、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

《ライトロード・ビースト ウォルフ》

光 / 4 / 獣戦士 / 2100 / 300

効果

このカードは通常召喚できない。このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

《裁きの龍 (ジャッジメント・ドラグーン)》

光 / 8 / ドラゴン / 3000 / 2600

効果

このカードは通常召喚できない。自分の墓地に「ライトロード」と名のついたモンスターカードが4種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。1000ライフポイントを払う事で、このカードを除くフィールド上のカードを全て破壊する。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを4枚墓地に送る。

「裁きの龍の効果発動！1000LPを払い、このカードを除く全てのカードを破壊する！！ジャッジメント・オブ・セイント！」
裁きの龍が大きく咆哮する。すると、レイレイや突撃部隊が破壊された。今気づいたが、ゴブリン突撃部隊がデーモンの斧を装備する時って、先頭だけか。虚しい。

「なんだと！」

伽弥LP4000 3000「さらに、ライトロードサモナールミナスを召喚！！」

《ライトロード・サモナー ルミナス》

効果

光 / 3 / 魔法使い / 1000 / 1000

1ターンの1度、手札を1枚捨てる事で自分の墓地に存在するレベル4以下の「ライトロード」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地に送る。

「な…そんな…」

「俺の勝ちだ！裁きの龍とライトロードサモナールミナスでダイレクトアタック！！ジャツジメントパニッシュュ！サモンディストラクション！」

試験官LP4000 10000

試験官のLPを0にすると同時に、歓声があがった。まあ、逆転勝ちだからな。さてと、かえって寝るか。

side奏

へえ…あの人も私と同じかな？後でコンタクトとろうかしら。

side???

あ、あの人もボクと同じトリッパーかな？アカデミアで会えていいな

side???

や、あれは伽弥！伽弥も来てたんだ！あ、呼ばれちゃった。あとで会いに行こー

side???

お、伽弥じゃねえか。知り合いがいるとなると頼もしい。出来る限

り早く連絡とるか。

side 伽弥

・・・ん？まてよ？よく考えると、俺柄にもなく叫んでるじゃねえか！？恥ずかしい…

まあ、楽しかったからいいけど

この転生物語は…まだ…続く…第零話 終

なんかワンキルしてました(後書き)

はい、色々伏線張っていて終わります。更新の速度は期待しないでください。ではリランでした！

く 出逢い く かゝらゝのお!?(前書き)

遅くなつてすいませんでした!

期末テストとかで忙しかつたもので…

では!第0-2スタート!!

く出逢いく かぐらぐのお!?

side 伽弥

「おい」

ん? 誰だ? この辺りに人はいないから…俺か。

振り向いてみると、三沢、翔、ほたて…もとい十代がいた。

「なんだ?」

「凄かったぜさっきのデュエル!」

「そうか。そいつはありがとな。」

「ところで、その後ろにいるのは…」

「どうした十代? なんもないぞ?」

「そっか…」(気づいてないのか。)

「ところで流川…でいいのか?」

「いや、伽弥で頼む。そっちの方がなれてるからな。」

「わかった。伽弥、でいいんだな?」

「ああ、そっちで頼む。ヨロシク三沢。」

「あれ? 伽弥くんなんでアニキと三沢くんの名前知ってるんすか?」

やべ…!

「ぐ、偶然お前らの決闘を見てたからな。お前の名前、聞いていいか?」

「」

「僕は翔つす! ヨロシクつす!」

「ああ、よろしく。」

「じゃあな。一人の時間を邪魔して悪かった。アカデミアで会おう。」

「」

三沢っていいやつだな…伽弥さんびつくり。

「ああ。アカデミアで。」

「「じゃあなー! (つす!)」」

さて、日も暮れてきたし、帰る「伽弥く!」こ…この声は…!…!

「びつくりした! 伽弥もココ来てたんだ!」

「ああ…お前もか。葵。」

こいつの名前は篠原葵。言っちゃあなんだが、幼馴染みだ。幼馴染みだからと言うだけで羨ましがられるが、実際にはあまり喜ばしくはない。何より葵は…凄まじくエロいのだ。しかも妙に俺になっっている。こうしている内にも…

「って、どこに手を伸ばしている！ベルトに手をかけるなトランクスの中に手を入れようとするな！」

この様に一緒にいるだけで俺の貞操が危うくなる。

「いいじゃーん減るもんじゃないし。伽弥がない間、寂しくて寂しくてびしょびしょだったんだよ？」

「それは涙であると信じたい！」

「あ、そうだ。聡も来てるらしいよ？」

「本当か？良かった良かった…」

聡がいるのなら安心だ。何せ一家に一台聡くんだからな。

「アカデミアで会えるといいね。じゃ、ばーいばーい！」

はあ…一体何しに来たんだあいつは…

「ねえねえ、伽弥くん、で、いいんだよね？」

「おわ！誰だ！？」

「ボクの名前は松原凜。それにしてもキミってすごいね。惚れ惚れするよ。思わず好きになりそうなた。」

「え？へ？」

話についていけない。にしてもかわいいなあ…じゃなくて！

「改めて自己紹介。ボクの名前は松原凜。キミと同じ、トリッパーだよ」

「な…！」

「じゃあね」

ど…どういっ話の流れ…好きになりそうって…あーだめだ！今日は色々ありすぎだ！今の話はなかった事にしよう。うん。

「こんにちは。」

今度はなんだよ…

「涼川さん。」

「奏でいい。こっちも伽弥と呼ぶ。」

「じゃ…じゃあ奏。どうしたの？」

「一応。話に来た。私もトリッパー。ヨロシク。」

「そうなの。ってええええええええ！？」

「サヨナラ。」

「え、ちょ、」

いなくなってる…

やぶえ。なんか頭がおかしくなりそう。とりあえず帰らないと。

（伽弥家）

「ただいま」

俺は一人暮らしだが、挨拶は習慣付けられている。

「とりあえず夕飯作るか」

俺の家はマンシヨンの1個室なため、結構狭い。なのでキッチンで料理するには振り向かなければならないのだが…

クルッ（振り向く）

ビクッ（驚く）

カチャ（弓を構える）

パシュッ（弓を放つ）

スカッ（外す）

この間約3秒。俺はアーチェリーをやっていて、自分でもなかなかの出来だと思っぐらいには上達している。多分。使っていた弓は、デュエルディスクが変形して弓になるように作られている。矢は空気を固めて打ち出すらしく、矢は必要ない。

まあ、それはおいといて、目の前に巨獣がいる。ヤバい、デカイ、

強い、みたいな3テンポそろってそうなの。あ。人になった。

『私が見えるのですか？マイマスター。』

(うわあ！なんだこれ！頭に直接声が聞こえる！)

『貴方の頭に直接話かけています。貴方の考えは私に伝わります。』

(そうなの？ちよつと不便だな。)

『まあ、伝わらせないように念じればそうなりますよ。』

(ご都合主義だなあ・・・ってちよいまち。お前誰？)

『？ご存知裁きの龍の精霊)()ですよ』

(はあ！？だつてお前：)

『精霊は擬人化出来ませぬ。』

目の前に居たのは、裁きの龍の鱗の模様のコートを着た、赤い目の俺と同じ年ぐらいの女の子だった。

(ええと、ちよつとまでジャッジメント)

『なんででしょう』

(お前は精霊だな？)

『はい』

(他に精霊はいるか？)

『貴方の、ですか？』

(ああ)

『それなら』

『呼んだか？』

(うわっ！？)

出てきたのはゴーズだ。確かによく使うが・・・

『あまり呼び出さないようにしてくれ。忙しいんでな。カイエンがヨロシク言っていたぞ。』

(ゴーズとカイエンか：)

『あの者達も貴方の精霊です。』

(そうか・・・ヨロシクなジャッジメント)

『はい』

笑うとカワイイじゃないか。

『そ、そんな！可愛いなんて…』
しまった。こっちの考えている事は相手に伝わっちゃうのか。
(にしてもジャツジメントって呼びにくいな…なんかないか?)
『名前、ですか？今の所はないですけど…』
(ふむ。じゃあ…) “アル” なんてどうだ?
『アルですか…いいですね！お願いします！』
「よし、今日はねるか。」

続く？

第012終

く 出逢いく かゝらゝのお!?(後書き)

アル『何故私の名がアルになったのだ?』

作者「それはね。獣の○者のアニメは見えてなくて、原作しか読んでない僕が想像した王○とキミの姿が重なったからだよ。」

アル『読者は元ネタ解るのか?』

作者「さあ…次は登場人物紹介になると思うよ!次回もお楽しみに
!」

伽弥「俺は…?」

くぶるふいーる

ネタバレ含む(前書き)

まずは謝罪から。

すいません！！

クリスマス間に合いませんでした……………

お正月には間に合うように頑張ります！

では、キャラ紹介です

いっつあしようたいむ！

伽弥「あ、決め台詞それなんだ。」

篠原「プロフィール紹介なのにそれやる意味あるの？」

くぶるふいーる

ネタバレ含む

伽弥「さあ、やって来ましたプロフィール紹介です！」
アル『して、本当の目的はなんだ？』

作者「私の頭の整理です」

アル「馬鹿がいる……」

伽弥「この小説大丈夫か？」作者「まあ、さくつとやっちゃんましよう」

n e m u : 篠原葵

容姿：黒髪 ポニーテール

イメージとしてはバカテスの島田さん。

性格：ひたすらエロい

使用デッキ：墮天使

オリジナル
聖天使

精霊：墮天使アスモディウス

聖天使ミカエル

篠原「はい 葵お姉さんだよ」

伽弥「さあ！次に行こう！」篠原「ちよつとちよつと!?!」

n e m u : 松原凜

容姿：体が縮んじやった某名探偵のマンガにでてくる世良さん。多分そのもの。性格：ノリが軽い。さぼりぐせアリ。族に言うボクっ娘。

使用デッキ：デュアル植物

セラフィム（オリジナル）

精霊：椿姫テイタニアル

エンシエントセラフィムガンナー

松原「お待たせ」

伽弥「ちいーっす」

篠原「ちよつと待った!!!私の出番はいせ」ボクのエースモンスター

「は椿姫テイタニアル セラフイムシリーズは少し後の登場だと思
うよ」「死ねえ!!」

松原「じゃあね 本編で待ってるよ」

伽弥「ハッハッハオモシロイヤツダナ」

アル『棒読みですね』

篠原「私の出番は!?!?ねえ!私の出番は!?!」

n e m u : 涼川奏

容姿：銀髪ロング エンジェルビーツの天使さんみたいな

性格：クール。実は結構運動神経が良い。

使用デッキ：エンジェルパーミッション 冥界パーミッション
半オリジナル)

精霊：裁きを下す者ボルテニス

冥王龍ヴァンダルギオン

断罪神ヴォルカニス

涼川「……………お待たせ」

伽弥「うす」

松原「奏ちゃんは物静かな感じがするけど「奏ちゃんは物静かな感
じがするけど本当はどうなの?」ちよつと!?!」

篠原「へへん!さっきのお返しだよ」

松原「へえ…:そうなの…:」

篠原「何?」

(ギロリ)

篠原「ヒヤア!な、なに?」松原「殺気のお返しだよ」伽弥「上
手い!座布団一枚!」

涼川「はい」

伽弥「え?なに?本当に座布団持ってるの?なんで??」

アル&mp;松原(ゴニョゴニョ「えゝ殺気って言うのは目力で
…:」『甘いです。やはり殺気と言うのは全身で…:』ゴニョゴニョ)

涼川「あれは…:」

伽弥「あつちはみちやだめだ」

篠原「そう言えば伽弥のプロフィールは？」

松原「あ、それはボクも気になる」

伽弥「え」

作者「はい、どうぞ！」

伽弥「ちょ、おま（ry

nemu：流川 伽弥

容姿：長髪 黒眼

性格：基本的に冷たい。本人の気まぐれで優しくなる。かもしれない。

使用デッキ：ライトロード ダークロード（オリジナル） カ

オスロード（オリジナル）

精霊：裁きの龍^{アル} 大罪の龍^{ギルティ・ドラグーン} 終末の龍^{デッドエンド・ドラグーン} 起承の龍^{ドラグーンオリジン・ドラグーン}

伽弥「ネタバレ乙!!」

作者「まあ、そう言わずに」

篠原「って言うかクリスマス終わって、クリスマス終わってるんじゃない？」

松原「で、どうなるの？作者さん？」

篠原「いい加減にしないで!!」

作者「お正月には出来るように頑張ります!!」

伽弥「頼むぜ」

篠原「ねえ！私の出番は！？ねえ!?!」

アル『では!』

伽弥「まだ始まったばかりですが!」

作者&mp：一同『「「「「来年も「いつつあしよつたいむ!」をヨロシクお願いします!」」」」』

くぷるぷいーる

ネタバレ含む（後書き）

はい。頑張ります。

感想貰えるように頑張ります。

あと、前書きと後書きのコーナーを創設します 意見とかあれば遠慮なく言ってください！

他の小説とのコラボも受付中です！

それではさようなら

Have a Nice Day .

第1 - 1話 アカデミア入学！？（前書き）

さあ、本編なんて書く暇あるんでしょうか。とりあえず、大急ぎです。感想ください。では！いつつあしうたいむ！

第1 - 1話 アカデミア入学!?

side 伽弥

「ほう…ここで暮らすのか…」

目の前にあるのはオシリスレッド

何故かって？そっちの方が都合が良いからだよ。ワトソン君。

「それにしてもボロい校舎だな…」

ギギイ…

うわ！ドアが軋んだよ… 『マスター、そろそろ状況の説明を…』

「アルか？誰にだよ？」

『それはですね…って、私に言わせないで下さい！』怒られた。普通は言われたらちよつとは嬉しくてもいいハズの台詞も、全然嬉しくない。

「まあ、説明ぐらいするか。状況の整理も含めて。」今、俺はレッド寮の前にいる。俺はライイエローだったんだがそっちの方が都合がいいんでな。クロノスに掛け合ったら物珍しそうにOKしてくれた。いいやつなんだよ。クロノスは。俺はそう信じてる！話がそれたな。

で、レッド寮のドアを開けたんだが…

「なんじゃこりゃ…」

思わず声がでる。滅茶苦茶汚い。机や床、ベッドにまで埃が積もっている。蜘蛛の巣なんてご愛嬌。とにかく汚かった。

「これは俺に対する挑戦状か？オモシロイ！ウケテタトウ！」

『なんでそんなに燃えているんですか…？』

俺はこう見えても世話好きだったりする。小遣い稼ぎに家政夫とかやってたからな。結構器用になった。またしても話がそれたな。ん？俺は誰に向かって喋っているんだ？

『そこは気にしちやいけません。』

地の文につっこまない！！

まあ、これだけ汚いならな。俺の……掃除魂が…燃えて狂つてもんよ!! (誤字にあらず)
「さあ!! やつてやるぜ! ピッカピカにしてやんよ!!!」
「だからなんでそんなに燃えているんですか?!?」

side 聡

どうも、聡です。なんかプロフィール紹介でも紹介されなかった影の薄さです。うん! 作者コロスコロスコロスコロスコロスコロスは!?! 自我が崩壊しそうに…危ない危ない。とりあえず、僕の個人情報晒しときます。

n e m u : 宮里聡

容姿: まあ一般的に言うイケメン。黒髪、オッドアイ(緑と青)

性格: 優しい。どちらかと言うと癒し系。何でも屋。だいたいこの事はプロ並。

使用デッキ: カオスマジシャン(半オリジナル) 次元マジシヤ

ン(半オリジナル) 精霊: プロメテウス混沌帝龍 カオスソルジャー 開闢の

使者 (デメテル) カオスソルジャー(ロキ) 神聖魔

導王エンデイミオン(オルペウス) 混沌魔導龍デューカリオ

ン(オリジナル) (デュオン) デイメンション・マジシャン(

オリジナル) (ハルキュオネ)

さてさて、突っ込み所満載だな…

まあいいか。混沌帝龍? めったに使わんよ。成り行きの上で精霊に

なつたんだ。悪気はない。

で、入学試験の実技を見てたんだが…なんだよあれ。ワンキル率高すぎだろ。俺？無理です。話がそれたな。んで、葵と伽弥来てるじゃん。俺だけじゃないじゃん。葵とはコンタクトとれたけど…伽弥が見つからないんだよな…他にもトリッパーがいるかもしれないし……

「ドオン！キユオン！！ズバアアアン！！」

「ナンジャアアア！？」

隣近所からものすごい音が…

「つて、伽弥！？」

噂をすればなんとやらだ。目の前にいるのは伽弥………

・と、女の子。

「おお！聡！？まさか隣とは！」

「はあ…そうだな。隣にいるのは？」

「ああ、裁きの龍のリランだ。」

「おお！お前にも精霊ができたか！」

「ああ、やつとだよ。」

『そちらは？』

「前に話しただろ？幼なじみtwoの聡だよ」

「つてことは、葵と連絡とれたのか。」

「おかげさまでな。お前も葵も変わらないなあ。」

『お二人はどんな関係なんですか？』

「話せば長くなるが…」

ピリリリリ！ピリリリリ！

「お？」

PDAに着信が…このタイミング…まさか………
やっぱり万丈目か。

「お？万丈目から呼び出しじゃん。行って来いよ。」

「めんどい。」

「まあまあ、俺も行くから……」

ピリリリリ！ピリリリリ！

「またかあ？」

「今度は葵からかよ……」

伽弥へ

万丈目から呼び出しつけた？私も行くから伽弥もきてね？
葵より

「マジか……」

「まあ、いこうぜ 減るもんじゃなし。」

「とりあえずデッキ調整するか。」

「お？相変わらずのライトロード？」

「当たり前だろう。」

「今日はどんなライトロードが見れるかな？」

「すぐおわる」

「マジか……」

『私の出番はあるのでしょうか……』

side 伽弥

2時間後……

「遅いぞドロップアウトb」伽弥おそーい！！」「レディを待たせたら駄目でしょ」「……………遅い」きさままあ！だいたい何をやってたお前ら！？」

「申し訳ございません……」

うつわくボッコボコだよ。まあ、当然か。

「さてと万丈目。決闘か？」「当然！！」

「決闘！！！！」

万丈目LP4000

伽弥LP4000

「俺のターン！」

また強制的に…まあいいんだけど。

「俺はモンスターを一枚セット、光の護封剣を発動してターンエンド。」

光の護封剣

通常魔法

相手フィールド上に存在するモンスターを全て表側表示にする。

このカードは発動後、相手のターンで数えて3ターンの間フィールド上に残り続ける。このカードがフィールド上に存在する限り、相手フィールド上に存在するモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

「俺のターン！ドロー！！俺はソーラーエクステンジを発動する！手札のライトロードサモナールミナスを墓地に送り、カードを二枚ドローし、デッキトップから二枚を墓地に送る。」

落ちたのは…《タイラントドラゴン》と《ライトロードビーストウォルフ》か。

「墓地に送られた《ライトロードビーストウォルフ》の効果で特殊召喚！さらに、《ドル・ドラ》を召喚、除外して《レッドアイズダ

「クネスメタルドラゴン」を特殊召喚！」

ドル・ドラ

効果

風 / 3 / ドラゴン / 1500 / 1200

このカードがフィールド上で破壊され墓地に送られた場合、ターン終了時このカードの攻撃力・守備力は1000になって特殊召喚される。この効果はデュエル中一度しか使用できない。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン

効果

闇 / 10 / ドラゴン / 2800 / 2400

このカードは自分フィールド上に存在するドラゴン族モンスター1体をゲームから除外する事で特殊召喚する事ができる。1ターンに1度だけ、自分のメインフェイズ時に手札または自分の墓地から「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン」以外のドラゴン族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「そして《レッドアイズダークネスメタルドラゴン》と《タイラントドラゴン》の効果発動！レッドアイズを生け贄に、来い！タイラントドラゴン！！」

タイラント・ドラゴン

効果

炎 / 8 / ドラゴン / 2900 / 2500

相手フィールド上にモンスターが存在する場合のみ、バトルフェイズ中にもう一度だけ攻撃をする事ができる。また、このカードを対象にする罠カードの効果は無効にし破壊する。他のカードの効果によってこのカードが墓地から特殊召喚される場合、自分フィールド上のドラゴン族モンスター1体を生け贄に捧げなければならない。

「そして死者蘇生を発動！墓地のレダメを特殊召喚！」

「やっぱり攻撃力2000オーバーが三体も並ぶと壮観だね。おっと、見た目の説明がまだだったな。ウォルフはソフトバンクの某お父さんが立ってるみたいだな。タイラントはまんまドラゴン。レダメはちよつと固そうなレッドアイズかな？」

「すげえ……」

「凄い展開力だ。」

「メチャクチャっす！」

「今回はドラゴンロードかな？」

「やっぱりリーダーはちがうね。」

「さすが伽弥ー！」

「……凄い」

おい。リーダーってなんだ？

「ふ、ふん！所詮ドロップアウトだな。俺の場に光の護封剣があるのを忘れたか？」

「手札からサイクロンを発動。光の護封剣を破壊。」

「な？そんなバカなあ！？」

「総攻撃！ビーストクラッシュ！ダークネスブラックメタルフレア！タイラントブレス！」

万丈目 LP 4000 1200 0

「よっしやあ!」

万丈目のLPが0になるのを知らせるブザーが鳴り響いた…

第1話 - 1 終

第1 - 1話 アカデミア入学！？（後書き）

伽弥「万丈目はなんで俺に決闘を申し込んだんだ？」

万丈目「万丈目さんだ！俺は始業式の日、貴様に侮辱された！！」

伽弥「始業式！？？」

万丈目「とぼけるな！あの日きさま！次回はお正月スペシャルになると思います！！それでは！次回もお願いしま〜す！！」ふざけるなあ！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5361z/>

いっつぁしょうたいむ！

2011年12月30日02時50分発行